

登録コード	L2730300	開講年度	2026				
担当教員	鈴木 裕也			副担当			
授業科目	日本語学特論Ⅲ						
英文授業名	Linguistics of Japanese: Specialized Lecture Ⅲ						
授業タイトル	日本辞書史						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2 時限
講義室	人文第 5 講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ，2021Lカリ，2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	辞書資料の講読を通して、漢字音、声点、和訓などの日本語学（日本語史）の基本的事項について理解し、新たな視点で日本語について分析することができるようになる。		
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	辞書資料の講読を通して、漢字音、声点、和訓などの日本語学（日本語史）の基本的事項について理解することができるようになる。		
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身につけている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	辞書資料の講読を通して、日本語学の新たな視点で日本語について分析することができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本授業では日本辞書史について概説し、資料を講読することにより、扱うことのできる日本語学の資料を増やすことを目的とする。特に古辞書資料を中心に講読する。						
授業計画	第1回 ガイダンス、辞書の概説 第2回 辞書の分類、辞書の限界 第3回 玉篇と篆隸万象名義 第4回 一切経音義と新撰字鏡 第5回 倭名類聚抄 第6回 色葉字類抄 第7回 類聚名義抄 第8回 字鏡抄、下学集 第9回 韻書、類書 第10回 歌学と歌語辞書 第11回 対訳辞書（日葡辞書など） 第12回 倭玉篇、節用集 第13回 近世の辞書（倭訓栞など） 第14回 近代の辞書（言海など） 第15回 現代の辞書、授業アンケート 期末試験なし（期末レポート）						
成績評価の方法	期末レポートにより評価する（100％）。期末レポートは、適切に辞書資料を調査できているかどうかを評価の基準とする。						
成績評価の基準	日本語学（辞書）に関する基礎的な考え方を最低限身につけ、表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語学（辞書）に関する基礎的な考え方を身につけ、表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語学（辞書）に関する発展的な内容を理解し、表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語学（辞書）に関する発展的な内容を理解し、自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」						
事前事後学習の内容	各回で取り扱った内容で理解できなかった部分・興味を持った部分について、参考書・各回の資料に挙げる参考文献を読む。						
履修上の注意	授業内で漢和辞書を用いることが多いので、用意しておくこと（高等学校で使用していたものや電子辞書でよい。図書館で借りてもよい）。 「日本語学概論」または「日本語史」を事前もしくは同時に受講していることが望ましい。						
質問、相談への対応	質問・相談用のformsにて受け付ける（URLはeALPSに掲載する）。						
教科書	使用しない。授業内で資料を配布する。						
参考書	購入は必須ではない。 西崎亨（編）1995『日本古辞書を学ぶ人のために』（世界思想社） 沖森卓也（編）2023『図説日本の辞書100冊』（武蔵野書院） 頼惟勤・水谷誠（編）1996『中国古典を読むために 中国語学史講義』（大修館書店）						

